ちきりいけ

しおわきいわ

滕池神社と汐涌石

地域の人々が、「ちきりさん」と呼んでいる「滕池神社」がここに鎮座ちんざされている。

推古天皇の御世みよ（五九二〜六二八）に市杵島姫命いちきしまひめのみこと（宗像三神の一神）が、巖島神社に向けて、九州筑紫の国つくしからはるばると二歳の嬰兒えいじを連れて中国路ちゆうごくじへのぼってこられ、この急な坂に差し掛かったとき、長旅の疲れがどっと出て、「えらや苦しやこの苦の坂は金の滕ちきりも要らぬもの」とつぶやかれ、それまで大切に持っていたこられた滕ちきり（機織機の部品はたおりき）を麓ふもとの池へ投げ捨てられた。それ以来人々は、この坂を「苦の坂」と呼び、その池を「滕池」と呼ぶようになったという。

後に「滕池」を埋めてその上に社やしろを建て、市杵島姫命を祭神さいじん（池に埋まった滕を御神体ごしんたいとして祀まつったという）として、滕池神社と名付けたという創立そうりつ由来がある

いつのころか、社の石垣の一部に汐涌石の霊れいが据すわり「旧暦六月十七日」の巖島管絃祭かんげんさいの夜には、この岩穴いわあなから汐水しおみずが涌き出ると、文政二年ぶんせい（一八一九）発行の国郡誌木野村こくぐんしこのむらに記録されている。

平成二十四年七月

大竹市教育委員会